

第 45 回人類労働学会全国大会 ならびに学会創立 40 周年記念国際シンポジウムのご案内

このたび、2010 年 6 月 11 日(金)～13 日(日)に第 45 回人類労働学会ならびに学会創立 40 周年国際シンポジウム、夏季研究会を開催することとなりました。学会創立 40 周年を記念する大会をこの名古屋の地で開催できることを大変光栄に存じます。

近年急速に複雑化・多様化する労働環境・生活環境において、ヒトの働きや生活行動と環境との相互作用を探究する人類労働学は、人々の健康・安全・快適を担保するインフラ整備のために欠くことのできない学際実践科学です。本学会が今年で 40 周年の節目を迎え、これまでの人類労働学の変遷を辿りつつ、今日の時代ニーズ、社会ニーズ、学術ニーズに対し人類労働学が果たすべき役割や、今後の展開・展望について今、議論すべき時期に来ていると言えるでしょう。

そこで今回の大会では、人類労働学会設立 40 周年を記念し、通常の全国大会内にて「学会創立 40 周年国際シンポジウム」を企画いたしました。40 周年記念講演として国際人間工学連盟会長の Andrew S. Imada 博士をはじめ、外国からも多くの講演者を迎えて、人類労働学の方性等について討議します。さらに、酒井一博 学会副会長(労働科学研究所所長)に「人類労働学会の過去・現在・未来」についてご講演頂き、今後の目指すべき方向性の視座を示して頂く予定です。人類労働学の先進的なアプローチと今後の戦略に関する知識や経験を交流する良い機会になると思っております。

なお、次世代を担う人材育成・奨励の一環として、国際シンポジウムのポスター発表および全国大会の一般発表では学会奨励賞を授賞予定です。国際シンポジウムにエントリーされた演題は、人類労働学会英文誌 Journal of Human Ergology 誌に selected paper として掲載・発刊する予定です。

また、毎年恒例となっている夏季研究会は、三重県鈴鹿市にある三惠工業株式会社様にご協力いただき、工場見学と参加型職場改善手法の体験をさせていただくことになりました。三惠工業様は昭和 26 年の創業以来「イス」一筋に的を絞り、事業を展開してきており、人間工学に基づくイスの設計にも精力的に取り組まれています。ご存じの通り、東海地域は製造業をはじめ多くの企業が活動しており、人類労働学の今後の展望を現場視点で討議するのにふさわしい企業と考えております。

最後に、開催地名古屋は交通の要所であり、新幹線で東京からは 1.5 時間、大阪からは 50 分、九州や仙台など日本各地からも飛行機を使えば 1.5 時間ほどでアクセス可能な好立地条件となっています。

多数の皆様方がご参加くださいますことを心よりお待ちしております。

第 45 回人類労働学会全国大会ならびに
学会創立 40 周年国際シンポジウム
大会長 岸田 孝弥(中京大学心理学部教授)

- 大会期日 : 2010 年 6 月 12 日(土)～13 日(日)
- 大会長 : 岸田孝弥(中京大学)
- 開催場所 : 中京大学 名古屋キャンパス(名古屋市昭和区八事本町 101-2)
名古屋市営地下鉄「八事(やごと)駅」5番出口より徒歩 0 分
 - ・6/12(土)国際シンポジウム : ヤマテホール(0 号館センタービル、次ページ参照)
 - ・6/13(日)全国大会 : 0 号館(センタービル)7 階 03 教室、次ページ参照※日によって場所が異なりますので、ご注意ください。

- 協 賛 : 一般社団法人日本人間工学会
- 問い合わせ先 : [大会専用 e-mail]: HES-conference@humanergology.com
 - * お問い合わせには、E mail をご利用下さい。

<参加予定のみなさまへ>

全国大会・学会創立 40 周年国際シンポジウム参加費 :

7,000 円(会員)、8,000 円(非会員・一般)、4,000 円(学生)

※参加費用には、国際シンポジウム(6/12)参加費、全国大会(6/13)参加費、学会懇親会(6/12)費用が含まれます。参加費は当日受付デスクでお支払い下さい。

※事前参加申込にご協力ください(下記)。

<事前参加申込のお願い>

大会参加は申込をしていない方も大歓迎です。しかし、お弁当、懇親会の手配の都合上、できるだけ事前申込にご協力ください。まだ、申し込みをされていない方は、大会ホームページ(<http://www.humanergology.com/conference/2010/>)に掲載されている申込用紙をご利用いただくか、3 月に会員の皆様へ郵送しました参加申込用紙をご利用の上、大会事務局(HES-conference@humanergology.com)までお知らせ下さい。

(5/31 までにお申し込み頂いた方は、国際シンポジウム Abstract 集の Participants List にお名前を掲載します)。

＜交通アクセス＞



＜会場＞

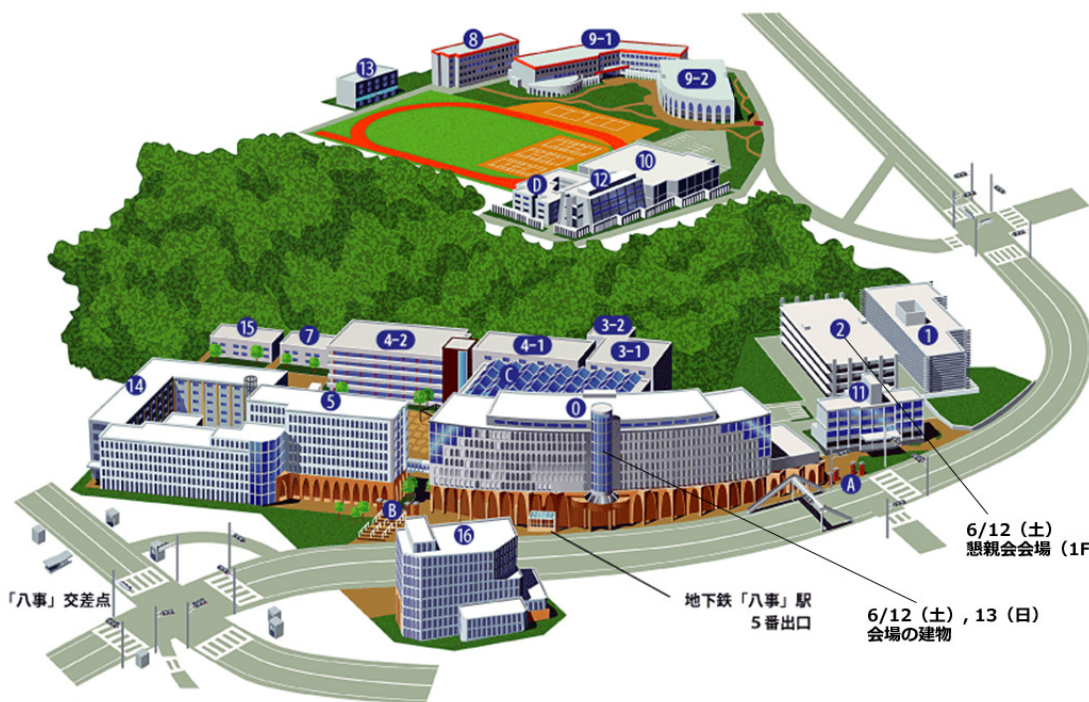
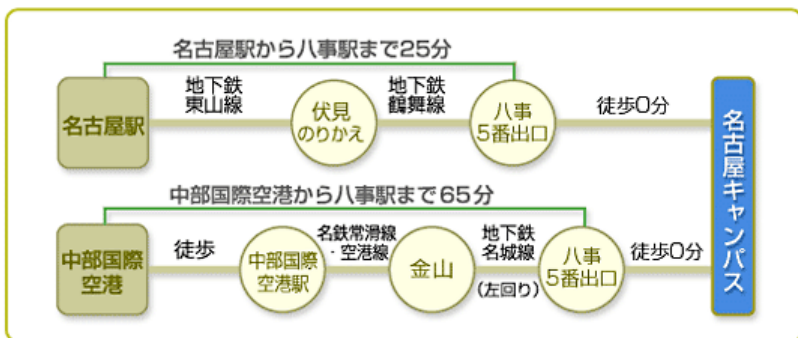
中京大学 名古屋キャンパス
名古屋市営地下鉄「八事(やごと) 駅」5番出口より徒歩0分

名古屋駅から:名古屋市営地下鉄東山線・藤が丘行き→伏見で名古屋市営地下鉄鶴舞線・赤池行き→八事着 料金 260 円

中部国際空港から:名鉄空港線ミュージスカイ・新鵜沼行き→金山で名古屋市営地下鉄名城線左回り・新瑞橋・八事方面 料金 1400 円(特急料金込み)

■6/12(土):国際シンポジウム
ヤマテホール 0 号館センタービル
(下の図参照)

■6/13(日):全国大会
0 号館(センタービル)7 階 03 教室
(下の図参照)



① 0 号館(センタービル)

② 1 号館(図書館)

③ 2 号館(教室棟)

④ 3 号館(教室棟)

⑤ 3-2 3 号館別館(研究棟・心理学部)

⑥ 4-1 4 号館中館(教室棟)

⑦ 4-2 4 号館西館(研究棟)

⑧ 5 号館

⑨ 7 号館(教室棟)

⑩ 8 号館(教室棟)

⑪ 9-1 9 号館(研究棟・法学部)

⑫ 9-2 9 号館(教室棟)

⑬ 10 号館(体育館)

⑭ 11 号館(本館)

⑮ 12 号館(体育館)

⑯ 13 号館

⑰ 14 号館(研究棟・文 国際英語
総合政策 経済 経営 商学部 教養部)

⑱ 15 号館(会議棟)

⑲ 16 号館(アネックス)

A 正門

B 西門

C ガレリア

D クラブハウス

6/12(土)
懇親会会場(1F)

地下鉄「八事」駅
5 番出口
6/12(土), 13(日)
会場の建物

<宿泊のご案内>

中京大学のある「八事駅(市営地下鉄鶴舞線)」へは、①伏見／丸の内／栄／上前津／東別院駅(鶴舞線・東山線・名城線)、②金山駅(名城線・JR・名鉄)、③名古屋駅(東山線・桜通線・JR・名鉄)、④八事駅の周辺が便利です。

以下のホテルは、交通アクセスが便利で費用もリーズナブルだと思われるものです。これ以外にも多くのホテルがありますので、参加者ご自身でお探してください。

ホテル名	地区	料金※ (／泊／シングル)	アクセス
名古屋伏見モンブランホテル	伏見	6,000～7,500円	「伏見」駅徒歩2分 TEL.052-232-1121
コンフォートホテル名古屋テヨダ	伏見	4,000～5,500円	「伏見」駅8番出口より徒歩約5分。 Tel 052-221-6711
名古屋ガーデンパレス	伏見・栄	6,000～8,000円	「栄」駅・1番出口より徒歩約5分／「伏見」駅・1番出口より徒歩約8分 TEL／052-957-1022
名古屋栄ワシントンホテルプラザ	伏見・栄	5,500～7,000円	「伏見」駅 4番出口より徒歩約7分／「栄」駅 7番出口より徒歩約7分 TEL 052-243-0410
名古屋錦ワシントンホテルプラザ	栄	4,500～6,000円	「栄」駅より徒歩約4分 TEL 052-962-7111
名古屋栄グリーンホテル	栄	5,000～6,000円	「栄」駅1番出口より徒歩1分 TEL: 052-951-8901
アパホテル名古屋錦	栄・久屋大通	9,000～10,000円	「栄」2番出口徒歩1分／「久屋大通」3番出口徒歩2分 TEL : 052-953-5111
名古屋丸の内東急イン	丸の内	5,500～8,500円	「丸の内」駅3番出口より0分(真上) TEL.052-202-0109
東横イン名古屋丸の内	丸の内	5,800～7,800円	「丸の内」駅8番出口より徒歩2分 TEL: 052-223-1045
アパヴィラホテル名古屋丸の内駅前	丸の内	9,000～10,000円	「丸の内」駅2番出口より徒歩1分 TEL : 052-231-9111
ルートイン東別院	上前津・東別院	6,700～7,000円	「上前津」駅徒歩4分 TEL 052-339-1101
名古屋金山ワシントンホテルプラザ	金山	7,500～9,000円	「金山」駅徒歩2分
サイプレスガーデンホテル	金山	9,900～10,500円	「金山」駅南口徒歩1分 TEL. 052-679-1661
ホテルキヨシ名古屋第二	金山・東別院	5,500～6,900円	「金山」駅北口徒歩8分／「東別院」駅徒歩2分 TEL(052)321-8188
名鉄グランドホテル	名古屋	9,000～11,000円	「名古屋」駅徒歩3分 TEL.052-582-2233
名鉄ニューグランドホテル	名古屋	7,900～9,000円	「名古屋」駅新幹線口(太閤通側)徒歩1分 TEL.052-452-5882
ロイヤルパークイン名古屋	名古屋	9,000～12,000円	「名古屋」駅徒歩3分。 TEL.052-581-4411
ホテルサンルートプラザ名古屋	名古屋	9,200～11,000円	「名古屋」駅桜通口より徒歩5分 TEL.052-571-2221
名古屋駅前モンブランホテル	名古屋	5,500～9,900円	「名古屋」駅より徒歩2分 TEL 052-541-1121
サーウィンストンホテル	八事	9,800～15,000円	「八事」駅1番出口直結 TEL.052-861-7901

※料金はあくまで目安です。季節や平日／祝日により料金が異なります。

＜発表者の皆様へ＞

■国際シンポジウムポスター発表（6/12）

1. ポスターサイズ

ポスターの印刷は発表者ご自身でお願い致します(当日、ご持参下さい)。ポスターは A0 サイズ(841mm×1189mm)を目安にお作り下さい(パネル自体は横 900mm、縦 2100mm ですが、下端の方は見えませんので、ご配慮ください)。

ポスターは、9:00～10:15 の間に指定の場所に掲示ください。ポスターセッションは「ヤマテホール」前のロビーにポスターセッション用のパネルが用意してあります。

各パネルの右上には発表番号(P01～P24)が掲示してあります。またポスターを貼る画紙は会場に準備してあります。

2. ポスター発表時間

5 分発表・5 分質疑応答の計 10 分です。10:30～セッション開始となりますので、時間になりましたらポスター前に集合してください。各セッションの運営は座長の方をお願いします。

3. ポスターの撤去

当日(6/12)の 17:30 までポスターは掲示しておいて下さい。懇親会前(18:00～)にポスターの撤去をお願い致します。なお、翌日は会場が異なるため、撤去し忘れることのないようにお願い致します。

■全国大会一般演題発表(6/13)

1. 発表時間

発表時間 10 分＋質疑応答 5 分の計 15 分が持ち時間となります。合図として、8 分－1 鈴、10 分－2 鈴、15 分－3 鈴を鳴らします。時間厳守の程、よろしくお願い致します。

2. メディア受付とビジュアルエイド

発表用ファイルを USB メモリー等に保存し、当日セッションの始まる 30 分前までに「メディア受付」までお持ち下さい。なお、当日は Windows PC と液晶プロジェクタを用意します。パワーポイントは Office 97-2003 形式(拡張子 ppt)でご用意下さい。Macintosh PC にて作成された原稿は Windows 環境下では改行位置のずれなどが生じる可能性があります。必ず Windows 環境下にて確認・保存したファイルをご持参下さい。

■座長の先生方へ(6/12, 6/13)

ご担当頂く発表演題の抄録は別途、事前にお送りさせていただきます。タイトなタイムスケジュールとなっておりますので、時間管理の徹底にご協力ください。

＜座長の方へお願い：座長報告のご執筆＞

お手数をかけて申し訳ございませんが、大会終了後に、会報に掲載する座長報告をお送り下さるようお願い致します。発表を聞かないと抄録だけでは分かり難いこと、質疑応答などを中心として執筆していただければと考えています。目安としては 1 発表あたり 200 字程度でお願い致します。座長報告送付の期限としては、次号の会報の最終的な原稿締切としては 10 月初旬ですが、時間をおくと忘れてしまいがちなので、大会終了後 2 週間(6月末)あたりか 7 月末あたりを目安にいただければと考えます。

送付先は会報担当の大箸先生(johashi@fuk.kindai.ac.jp)へテキストファイルか word のファイルでお願い致します。面倒な作業となりますが、よろしくお願い致します。

第45回人類労働学会全国大会ならびに学会創立40周年国際シンポジウム 大会運営委員会

<大会長>

岸田 孝弥 (中京大学心理学部 教授)

<事務局長>

城 憲秀 (中部大学生命健康科学部 教授)

<顧問委員会>

井谷 徹 (元 国際労働機関(ILO)労働者保護局局长)	岡田 守彦 (筑波大学 名誉教授)
片岡 洵子 (日本女子体育大学特任教授)	菊池 安行 (千葉大学 名誉教授)
香原 志勢 (立教大学 名誉教授)	小木 和孝 (ICOH 会長、(財)労働科学研究所)
酒井 一博 (労働科学研究所 所長)	佐藤 陽彦 (西九州大学 教授)
中田 英雄 (筑波大学 人間総合科学研究科 教授)	早弓 惇 (日本女子体育大学 名誉教授)
堀野 定雄 (神奈川大学工学部 准教授)	

<運営委員会>

青山 京子 (聖隷健康診断センター)	池田 良夫 (愛知工業大学経営学部)
榎原 毅 (名古屋市立大学医学研究科)	尾入 正哲 (中京大学心理学部)
斎藤 真 (三重県立看護大学 看護学研究科)	武山 英麿 (東海学園大学 人間健康学部)
向井 希宏 (中京大学心理学部)	矢野 円郁 (中京大学心理学部)
山田 琢之 (なごや労働衛生コンサルタント事務所)	

<実行委員会>

池上 徹 (ITI エルゴコンサルタンシー)	加藤 麻樹 (長野県短期大学)
久保 智英 ((独)労働安全衛生総合研究所)	下平 佳江 (長野県短期大学)
鈴木 寛之 (中部大学)	高西 敏正 (北九州市立大学)
高橋 悦子 (四日市看護医療大学)	竹内 由利子 (川口短期大学)
松岡 敏生 (三重県工業研究所)	松田 文子 (労働科学研究所)
水野 有希 (東洋学園大学)	森島 美佳 (岐阜市立女子短期大学)
安田 府佐雄(三恵工業株式会社)	

<事務局スタッフ>

田中諒介 (中京大学大学院 修士2年)	菅野甲明 (中京大学大学院 修士1年)
---------------------	---------------------

※50 音順、敬称略

<広告・協賛>

- ・中京大学心理学部
- ・松本彪司法書士土地家屋調査士事務所
- ・なごや労働衛生コンサルタント事務所
- ・財団法人 日本予防医学協会
- ・株式会社 ラーニングバリュー
- ・株式会社 折原製作所
- ・株式会社ナカニシヤ出版
- ・竹井機器工業株式会社
- ・株式会社創成社
- ・サッポロ飲料株式会社
- ・株式会社原田・ガトーフェスタ ハラダ

学会創立 40 周年記念国際シンポジウム 6 月 12 日 (土曜日) International conference for the 40th anniversary of HES

(8:45-10:15: 理事会) ※3 号館別館 1 階会議室 (A-104)

10:15-10:30: Opening Ceremony

- Junko KATAOKA (The president of HES)
- Koya KISHIDA (The chairman of HES conference for the 40th anniversary of HES, Chyukyo Univ.)

10:30-12:00: Poster Presentations

<Session A>

■Chair: Masaru MIYAO (Nagoya University)

<P01> Situation Analysis as a Precondition of Task Analysis in Product Development

Masami Maekawa^{1,2} and Toshiki Yamaoka³

(1: Sosa Design incorporation, 2: Graduate School of Wakayama University, 3: Wakayama University)

<P02> A Proposal on Simple Usability Method (SUM)

Shinya Uehara¹, Toshiki Yamaoka¹ and Satsuki Tsukuda²

(1:Wakayama University of System Engineering, 2:SHARP CORPORATION)

<P03> Sequence Effects in a Cognitive Interference Paradigm: No Decline with Aging

Madoka Yano

(Chukyo University Faculty of Psychology)

<P04> Examination of Service Evaluation Using Service Design Items

Shinichiro Kitaoka and Toshiki Yamaoka

(Wakayama University Department of Design and Information Sciences)

<P05> The “Reading Mind in the Eyes” Test: Application to Japanese University Students

Yujiro Kawata¹, Hideki Hiruta¹, Kazusa Oki¹, Yasuyuki Yamada², Sumio Tanaka^{1,2}, Motoki Mizuno^{1,2} and Masataka Hirosawa^{1,2}

(1: Juntendo University Graduate School of Health and Sports Science, 2: Juntendo University School of Health and Sports Science)

<P06> An Observation Method to Extract the Current of the Time

Toshiki Yamaoka

(Wakayama University, Faculty of Systems Engineering)

<P07> Investigation into How Hay Fever Masks are Actually Worn

Mika Morishima¹, Koya Kishida², Takashi Uozumi³ and Masayoshi Kamijo⁴

(1: Gifu City Women's College, 2: Chukyo University, 3: Muroran Institute of Technology, 4: Shinshu University)

<P08> The New Nursing-Care Insurance System in Japan: The Problems of Accepting Foreign Care-givers and Nurses

Asako Naruse¹ and Akiyoshi Matsumura²

(1: Otsuma Women's University, 2: National Defense Medical College)

<Session B>

■Chair: Nozomi Sato (Kinki University)

<P09> A Study on the Effort of WIB (Work Improvements for Seafarers) for Vessel Crew and Plastic Factory Workers

Shuji Hisamune

(Takasaki City Univ. of Economics)

<P10> Effects of Organizational Development on the Psychological Aspects among University Students

Yasuyuki Hochi¹, Yasuyuki Yamada² and Motoki Mizuno^{1,2}

(1: Juntendo University Graduate School of Health & Sports Sciences, 2: Juntendo University School of Health & Sports Sciences)

<P11> Improve Children's Foot Health through Teaching How to Wear Shoes

Mayumi Katase¹ and Shin Saito²

(1: Kinjo Gakuin University, 2: Mie Prefectural College of Nursing)

<P12> Development of the Workshop Program Introducing Town Watching and Making Maps by the Geographic Information System

Hiroki Ogawa

(Akita Prefectural University Faculty of System Science and Technology)

<P13> A Study on Teaching Methods for Chest Compression to Beginners in Cardiopulmonary Resuscitation

Tomoyuki Hasegawa, Akira Tamada and Shin Saito

(Mie Prefectural College of Nursing)

<P14> A Study of the Interface between Athletic-Academic-Social Roles among Student-Athletes in Japan

Yasuyuki Yamada¹, Motoki Mizuno^{1,2}, Yasuyuki Hochi² and Masataka Hirosawa^{1,2}

(1:Juntendo University School of Health & Sports Sciences, 2:Juntendo University Graduate School of Health & Sports Sciences)

<P15> A Proposal of Wooden Training Chair Design Based on HDT

Yusuke Morita and Toshiki Yamaoka

(Wakayama University Faculty of System Engineering Department of Design and Information Sciences)

<P16> Locally Adjusted Design and Use of Action Checklists for Improving Visiting Care Work

Kazuhiro Sakai¹, Toru Ikegami² and Kazutaka Kogi¹

(1: Institute for Science of Labour, 2: ITI Consultancy)

<Session C>

■Chair: Hiroyuki IZUMI
(Department of Ergonomics, UOEH, Japan)

<P17> The Effects of Various Knee Raising Postures in a Supine Position on Swelling in the Lower Leg and Foot in Elderly Females

Satoshi Muraki¹, Koji Kuroda¹, Hiroko Noto¹, Mitsuru

Ookura² and Seiji Saito³

(1: Kyushu University, Faculty of Design, 2: Fukuoka University, Faculty of Medicine, 3: Matsue College of Technology)

<P18> Optimum Arousal Level Preservation System Using Biological Rhythms While Driving

Issey Takahashi, Hayato Ohashi and Kiyoko Yokoyama

(Nagoya City University Graduate School of Design and Architecture)

<P19> A Study on Comparison of Three Generations' Ability of Keeping a Standing Posture by Measurement of Acceleration

Macky Kato¹, Yoshie Shimodaira² and Takeshi Sato²

(1: Nagano Prefectural College, 2: Jissen Women's University)

<P20> Work Situations of Geriatric-care Personnel in Japan and Sweden

Midori Shimaoka, Shuichi Hiruta, Börje Rehn, Gunnevi Sundelin, Asami Tatsumi, Fumiko Hori and Yuichiro Ono

(1: Nagoya University Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, 2: Umeå University 3: Hamamatsu University, 4: Chubu University, 5: Fujita Health University School of Medicine)

<P21> Influence of Backrest Structure for Sitting Comfort of Meeting Chairs

Toshio Matsuoka¹, Hirokazu Kimura², Masaki Matsumoto³, Fusao Yasuda³ and Toyonori Nishimatsu⁴

(1: Mie Prefecture Industrial Research Institute, 2: Technology Research Institute of Osaka Prefecture, 3: Sankei Company Limited, 4: Shinshu University Faculty of Textile Science and Technology)

<P22> One-side Dominance in Humans: Functional Characteristics of the Upper and Lower Extremities and the Dominant Eye in University Soccer Players

Akiyoshi Matsumura¹, Kyoko Takeuchi², Takahiro Nakamura³, Katsura Higuchi⁴, Nobuo Kikuhara⁵, Yutaka Takahashi¹, Kazuo Maie⁶ and Morihiko Okada²

(1: National Defense Medical College, 2: Teikyo Heisei University, 3: National Defense Medical College, 4: Bunkyo Gakuin University, 5: Saitama University, 6: Otsuma Women's University)

<P23> Application of Brain Waves to Drawing up the TV commercial

Hideyuki Imai¹ and Toshiki Yamaoka²

(1: Lion Corporation, 2: Wakayama University)

<P24> Convenient-fully Forecasting Model for New Products

Hideyuki Imai¹ and Toshiki Yamaoka²

(1: Lion Corporation, 2: Wakayama University)

■13:00-13:40: Keynote1

Chair: Junko Kataoka

(President of Human Ergology Society, Japan Women's College of Physical Education)

Vision and Strategies of Human Ergology Society Near Future

Kazuhiro Sakai

(Institute for Science of Labour, Kawasaki, Japan)

■13:50-14:20: Keynote2

Chair: Yoshio Ikeda

(Aichi Institute of Technology)

The effects of a joint HES study on the reduction of intra-bus accidents

Sadao Horino (Kanagawa University)

Kazuhiro Sakai (Institute for Science of Labour, Kawasaki, Japan)

■14:30-15:30: Special Keynote

Chair: Koya Kishida (Chairperson of the International conference for the 40th anniversary of HES)

Participatory Ergonomics -Past, Present & Future -

Andrew S. Imada

(President of International Ergonomics Association (IEA))

■15:40-17:30: Symposium

Chair: Toru Itani (Former Director, Labour Protection Department, International Labour Office)

Current Status and Future Challenges of Participatory Approach Improving Occupational Safety and Health

1. Safe Home Project

Sara Arphorn (Mahidol University, Thailand)

2. Practical application of Participatory Action Oriented Training (PAOT) for the improvement of OSH and Environment in agriculture, some experiences in Vietnam and other countries in Asia and Africa.

Ton That Khai (Can Tho Medical College, Vietnam)

3. Human ergology that promotes participatory approach to improving safety, health and working conditions at grassroots workplaces - Achievements and actions -

Tsuyoshi Kawakami (Decent Work Team for East and Southeast Asia and the Pacific, ILO Regional Office for Asia and the Pacific, Bangkok, Thailand)

4. Kaizen— Ergonomics Approach to Occupational Health and Safety”

Masaharu Kumashiro (Department of Ergonomics, UOEH, Japan)

(Lunch)12:00-13:00

(午後の Keynote/Special Keynote は、日英同時スライド表示で行います)

(Banquet) 18:00-

at the ground floor (ARENA) of Library and Classroom Building (Building No.2)

全国大会 6月13日(日曜日)

9:30-10:45 一般発表 1

■座長:松岡敏生(三重県工業研究所)

1-1 公共機関の画面における GUI パーツの表現方法の現状把握

○木原理絵、山岡俊樹(和歌山大学システム工学部 デザイン情報学科)

1-2 パッケージにおけるイラストと文字情報について認知側面からの調査

○石原啓介、山岡俊樹(和歌山大学 システム工学部 デザイン情報学科)

1-3 学生のコンピュータ機器の使用状況について

○山口真衣(近畿大学 産業技術研究科)、長谷川徹也(近畿大学 産業理工学部)

1-4 幼児における食品パッケージの開封性に関する研究

南川優子(大阪市立大学生生活科学部)、○岡田明(大阪市立大学大学院生活科学研究科)、渡邊敏郎(大阪市立大学新産業創生センター)、小西洋太郎(大阪市立大学大学院生活科学研究科)

1-5 超音波筋横断面計測システムを用いた大腿部筋横断面積の評価について

○福元清剛(九州大学大学院 芸術工学研究院)、福田修・椿井正義((独)産業技術総合研究所)、石内愛美(九州大学大学院 芸術工学府)、村木里志(九州大学大学院 芸術工学研究院)

10:45-10:55 休憩

10:55-12:10 一般発表 2

■座長:高橋雄三(広島市立大学大学院)

2-1 大学病院に勤務する看護師の摂食障害に関する研究

○沖和砂(順天堂大学大学院)、杉浦幸・山田泰行(順天堂大学)、堀野歩(順天堂大学大学院)、水野基樹・広沢正孝(順天堂大学、順天堂大学大学院)

2-2 高齢者の日常生活行動量と生活の質(Quality of Life)の関係

○中島史朗(広島大学大学院総合科学研究科)、松林貴昭(NTT ドコモ)、三木由美子(広島大学大学院総合科学研究科)、高橋和文(金城学院大学)、山崎昌廣(広島大学大学院総合科学研究科)

2-3 アロマセラピーを利用したストレス軽減試行の一事例

○一杉恵子・斎藤美智子・鈴木美栄子・豊田光子(麻生リハビリ総合病院 看護部)、真家生(大妻女子大学 生活科学資料館)

2-4 車椅子利用者のために企画されたツアーに見るバリアフリーの現状

○吉野正規((有)ステップリハビリケアサービス)、大橋信夫((財)労働科学研究所)

2-5 安心して行き来できる街づくり要件:横浜と鎌倉に見る共通点

○堀野定雄(神奈川大学工学部)、小木和孝((財)労働科学研究所)

12:10-13:00 総会

13:00-14:30 理事会企画シンポジウム:

次世代を担う人材と学会運営の活性化に向けて

■司会 酒井一博(労働科学研究所)

(1)人類労働学会の社会的役割について
森みどり(神奈川大学)

(2)本学会の活性化に向けた戦略について
水野基樹(順天堂大学)

(3)本学会の世代継承や次世代を担う人材育成について
下田政博(東京農工大学)

(4)学会コミットメントの向上について
水野有希(東洋学園大学)

14:30-14:40 休憩

14:40-15:40 一般発表 3

■座長:向井希宏(中京大学心理学部)

3-1 3DCG シミュレーションによる交差点視環境評価 - 運転者視点の比較 -

○森みどり、堀野定雄、久保登(神奈川大学 工学部 人間工学研究室)

3-2 映像記録型ドライブレコーダを用いた事故解析 - タクシー対自転車事故・ニアミスの要因と予防安全 -

○堀野定雄、森みどり、久保登(神奈川大学 工学部 人間工学研究室)

3-3 操作時における手がかりの役割

○山岡俊樹、土井俊央(和歌山大学システム工学部)

3-4 大学生アスリートにおけるフォローアップの研究 - 監督へのナラティブ・アプローチを通して -

○稲葉健太郎(三菱総研DCS)、水野基樹(順天堂大学、順天堂大学大学院)

15:40-15:50 休憩

15:50-17:05 一般発表 4

■座長:近藤雄二(天理大学体育学部)

4-1 生活者行動観察におけるマーケティングの効用

○今井秀之・原憲子(ライオン(株)生活者行動研究所)、山岡俊樹(和歌山大学システム工学部)

4-2 販売イベントにおける行動観察の実施と一考察

○富永彩容子(和歌山大学大学院システム工学研究科)、木原理絵・山岡俊樹(和歌山大学システム工学部)

4-3 東京の保育園児と幼稚園児の生活リズムと運動発達について

○岩田浩子(聖霊女子短期大学 生活文化科)

4-4 人手不足に悩む中山間地域における援農者の確保

○下平佳江・加藤麻樹(長野県短期大学 生活科学科)、大橋信夫((財)労働科学研究所)

4-5 鍛造作業における労働負担調査

- 自覚症状調べと疲労部位調べを中心として -

○田中諒介(中京大学大学院)、岸田孝弥(中京大学心理学部、中京大学大学院)

17:05-17:30 休憩

17:30- 表彰式

18:00 閉会

2010 年人類動態学会夏季研究会のご案内

今年の夏季研究会は、三重県鈴鹿市にある三惠工業株式会社様にご協力いただき、下記の通り 6/11 に開催いたします。三惠工業様は昭和 26 年の創業以来「イス」一筋に的を絞り、事業を展開してきており、人間工学に基づくイスの設計にも精力的に取り組まれています。ご存じの通り、東海地域は製造業をはじめ多くの企業が活動しており、工場見学と参加型職場改善手法の体験を通じ、人類動態学の今後の展望を現場視点で討議したいと思います。

夏季研究会開催場所

三惠工業株式会社(〒513-0017 三重県鈴鹿市上野町字助町 48 番地) <http://www.isu-sankei.co.jp/>

夏季研究会参加費

3,000 円(会員・非会員・一般)、2,000 円(学生)

※昼食付、当日お支払い下さい。

申込方法

ホームページ内「大会参加申込について」の項にある、参加申込用紙を使って全国大会・国際シンポジウム参加と併せて申込下さい(申込先着 30 名となります。定員になり次第締め切ります。ご期待に添えない場合はご了承ください)。

【参加申し込みページ】 <http://www.humanergology.com/conference/2010/registration.html>

内容とスケジュール

集合場所:「JR 名古屋駅 関西本線ホーム 13 番線」10 時 00 分集合

※間に合わない方は、三惠工業株式会社に直接お越し下さい。

- 10:05－10:55 : 関西本線亀山行き 快速電車 乗車
- 10:56－11:10 : 関西本線 加佐登駅 到着、徒歩にて三惠工業に出発
- 11:10－11:15 : 三惠工業株式会社 着
- 11:15－11:35 : 夏季研修会 説明スタート(会社紹介・ビデオ鑑賞)
- 11:35－12:15 : 工場見学スタート(2 グループに分かれて工場内巡視)
- 12:15－13:00 : (昼食休憩)
- 13:00－13:40 : チェックリストを持って工場内巡視
- 13:40－14:40 : 4 班に分かれてグループワーク実施
- 14:40－15:40 : 班ごとに代表者が発表
- 15:40－16:10 : (総括)三惠工業様よりコメントを頂く
- 16:10－ : 加佐登駅に向け出発
- 16:29－ : 関西本線名古屋行きに乗車
- 17:31－ : 名古屋駅着
- 18:00－20:00 : 名古屋駅前の会場にて懇親会実施